

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム れんげそう
(ユニット名)	2 ユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地
記入者名 (管理者)	湯元 正美
記入日	平成 21年 12月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	毎日全員で唱和することで、日々新たな気持ちで取り組めるよう努めている。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	限られた方が多くなってきたが、近くを散歩する方にも気軽に声かけして、日常的な付き合いができるよう努めている。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	利用者の高齢化により外出する機会が減ってきているが少しでも外出出来るよう心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域での勉強会や話し合いがあれば参加できるよう民生委員や町内役員の方に声かけはしている。施設見学や電話等で認知症の相談、介護保険の利用方法などの相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員全員に説明し、全スタッフで取り組む事の意義を理解して、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者も偏らないよういろいろな方に参加して頂き、内容はできるだけ施設内で起きた内容を話し合い、生活改善に役立てたり、マニュアルづくり等に役立てている。また家族からの意見は直ぐに生活に反映できるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日ごろから電話やメール、直接出向いての話し合いなど、気兼ねなく行き来できるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度についての知識は定期的な会議や研修報告書などで機会がある。今後必要な方がいたら活用したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビなど各マスコミで多く取り上げられており、その都度定期の会議等の話題に取り入れ、虐待の意味についても深く考えて行動するようにしている。	○	身体的虐待だけでなく言葉の虐待にも気を配り、今後も発生防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後も推進会議や面会時を利用して意見の収集に努め迅速に対応していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>家族の面会時に近況報告を行っている。又、遠方の御家族に少しでも日々の状況が分かるように毎月の便りに、担当スタッフ・御本人から一筆添えるように勤める。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>意見を聞く機会を多くとり反映させ質の向上に努める。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>今後、利用者の重度化傾向にあるが御本人の生活のペースにあわせるなどして臨機応変に対応する。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>ユニットごとに職員の固定化、顔なじみのある職員のケアを行い、新しい職員が入った場合は利用者に紹介するようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や計画担当者は研修の機会があるが、職員の研修の場が少ない。</p>	○	職員の研修参加の機会がもっと必要である。又、参加した場合は必ず報告を行う。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>直接施設に行き来する機会はないが、日頃から電話で連絡を取り合い、意見交換を行っている。</p>	○	他のグループホームの取り組みを知ることが出来るように見学や意見交換会の参加を行い、ケアに活かし質の向上に努める。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>夜勤明けには必ず休みを入れ、体調不良時や家族の介護など、必要な時には休めるよう、柔軟な対応をしている。また定期的な法人内への親睦会への参加を勧め、ストレス解消に努めている。</p>	○	法人内の親睦会参加はあるが、「れんげそう」内の親睦会は無いので機会を作りたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得の案内など配布して、各自が知識習得ができるようにしているが、なかなか資格取得まで行きついていない。</p>	○	働きやすい労働環境を作りを行い、向上心を持って働けるような雰囲気を作る。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前より詳しく話し合い、より多くの意見集を行い、サービス向上に役立っている。うまく表現できない方は、家族からの意見を参考にしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と家族との思いが違ったり、直接言えない事柄など深く掘り下げて良く聴き、より良い信頼関係が築けるよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や医療機関、今まで利用していたサービス機関等とも連絡をとり、適切なサービスが使えるようアドバイスしている。	○	御本人や御家族の思い状況を確認し早急に対応が必要な場合は柔軟な対応が行えるようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの方が病院や施設からの入居であり、事前に施設見学をされる方は少なくなったが、家族の協力を頂きながらわかりやすい言葉を使ったり、馴染みの家具を持ちこんだり、生活習慣をできるだけ崩さないよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす人生の先輩として、残された多くの能力に着目して、色々な事に参加してもらっている。	○	日々の関わりで一方的になってしまわぬように、声掛の工夫や、出来る事は一緒にして頂けるように心掛けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症が進行するにつれて、家族の協力がさらに必要になり、ともに悩みながら支えていけるよう関係づくりを行っている。	○	日々の出来事や、気付いた事は、ご家族と情報を共有する事で本人を支える協力関係が築けてきている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族とのつながりを望んでおり、一緒に外出したり手紙のやり取りを援助して、より良い関係作りを支援している。	○	外泊・外出など家族と共に過ごす時間を提供し良い関係の継続に努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が近くの方は日常的に面会にきたり、外出や外泊も積極的に進めている。また遠方の方は定期的な電話や手紙で、疎遠にならないよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が入居前からの顔見知りが多いので、お互いの関係をよく理解して、より良い関係を維持し、共に支えあって過せるよう援助している。	○	利用者同士の関係についてスタッフが情報を共有し日々、利用者の状況には関係があるので注意深く見守り、利用者同士の関係が円滑になるように働きかける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方にはお葬式に出席したり、入院見舞いに行き、その後もよりよい関係が続けられるようにしている。	○	地域における施設として必要な思いであり、今後の施設運営のためにも大切にしていきたい。
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなくしぐさや表情に注意し、真の意向が確認できるよう努めている。またその為にも日頃より家族との話を密に持つようにしている。	○	目の前の行動にとらわれ真の意向をくみ取れないこともあるが、情報を共有化して、全職員が同じ思い出で援助出来るよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、日頃の会話や家族面会時などに情報収集を行い、本人にとって嫌なこと、何が大切事なのかを把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	完全ではないが、本人や家族から情報をよく聞き、一人一人の生活リズムを把握して、その人らしい生活ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の家族の意向、主治医の意見、スタッフの気づきなど意見を出し合い、その人らしい介護計画作成に努めている。	○	利用者本位の計画作成に努めているが、不足な事も多いと思われるので、今後もさらに意向に反映した計画作成に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて定期的に見直しを行い、急変時や病状変化に合わせて随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を作り、お互い気づきやいつもと違う表情や行動など詳しく記入し、申し送り帳も利用して情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面では経営母体の医療機関で対応し、家族の希望があれば指定の病院等を受診できるよう支援している。	○	身体的な負担にならないよう、できるだけ入院が避けられるよう往診で対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員、集落代表、消防署、駐在所のおまわりさんなどいろいろな方に参加して頂き、意見交換に努めている。また小学生の体験学習や保育園児との交流など、地域との関係づくりも行っている。	○	施設近くの入居者が多く面会も多いが、馴染みの関係がより長く続けられるよう援助していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容のサービスを個人の希望に沿って、予約や送迎サービスなどの援助を行っている。通所サービスなど利用できればいいが、金銭的なこともあり実施できていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議出席して、地域における高齢者保護対応についてアドバイスをもらったことはあるが、その後は直接介護保険課と話し合っているので協働する場がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回の定期往診はあるが、家族や本人の希望に応じて専門医や他の病院が受診できるよう援助している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	さらに詳しい知識は、その都度医師や薬剤師から支援して貰っている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケアー尊厳ある生についての勉強会を持ち、ご家族と協力のもと、その人らしい生を全う出来るよう介護の質を上げて行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	年々重度化し、ほとんどの家族が最終看取りまで希望しており、希望の生活が提供出来る様、今後も取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に目上の方である事を意識した声かけを行い、個人情報には守秘義務があることを全スタッフが認識している。しかし親しい言葉使いに努めても荒い言葉にとられてしまうことがあった。	○ 親しくしている間柄でも常に敬いの気持ちを持って、優しい言葉使いが出来るよう努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向を尊重し、またうまく表現できない方は表情を読み取り、できるだけ自分で決めていただけるようにしているが、困難な事が多くなってきた。	○ 本人の真意の意向がどこにあるのかを見極め、さらに自己決定できる生活ができるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	落ち着きがなく混乱される方など、できるだけ御本人の意向を伺いながら見守り、納得されるように支援していきたい。	○ 希望の意味を深く掘り下げ、少しでも穏やかな生活ができるよう援助していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の能力・好みその人らしさに対応して援助しビューティヘルパーを利用したり希望する美容室に予約して送迎するなどの支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や下ごしらえ、調理・配膳・下膳・台拭きなど各利用者に来れる事をしていただいている。	○ 重度化に伴いできる事が限られてきたが、残存能力が少しでも発揮できるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握して、主治医に相談しながらなるべく本人の希望に沿った援助ができるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録、把握している。紙パンツを使っている方でも昼間は出来るだけトイレ使用を勧めている。	○	季節やその日の体調に合わせて、適切な排泄用品を使用し、清潔な環境で排泄が出来る様、今後も援助を続けていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皮膚疾患の方など優先しなければいけない事もあるが、嫌がる方には無理強いすることなく、声かけや違うスタッフが誘うなど楽しめる入浴に心がけている。	○	浴槽へ入る事ができない利用者が増えているので、特に冬場に関しては室温を上げたり、足浴や掛け湯を頻回に行うなど、保温に工夫している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調により昼間休憩が必要な方も居るが、睡眠はその方のペースを乱さないよう無理強いせず、体操や歌、指運動など日中は活動的になるよう、身体を動かすことを勧め、夜間安眠出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の今までの生活観を参考に、残された力を発揮できるよう調理や配膳、片付け、朝の掃除や畑仕事など参加を勧めているが、体調により実施できないことが多くなってきた。	○	毎日、転倒予防体操を行い、時間がある時はレクリエーションや歌を唄ったり、口腔体操を行っている。また、新聞たたみやちり紙折など出来る方には参加していただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に応じて財布を持ったり、スタッフが預かり希望する時にお渡しして、お金を使う楽しみや意義を大切にしている。	○	お金を所持することで、逆に不安になってしまうことも多いが、お金を持つことの意義を理解して、希望に添えるようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけたり、近くの公園にミニドライブを行ったり、地域の行事やイベントなどへ出かけているが、対象が限られてきた。	○	外出が限られた利用者のみなので、プランターや鉢に簡単な野菜・花を植え単調うな生活にメリハリをつけて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全ての希望をかなえる事は困難だが、ご家族の協力も頂きながら、実現に向けて援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけてられるよう、又他の方に配慮できるよう子機を使っている。また手紙が着来たら返事が出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に決まっておらず、自由に面会していただいている。また自分以外の面会を理解できずに混乱される方もいるが、わかりやすく説明して理解に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、身体拘束の無い施設づくりを目指し、実行しており、日々の生活の中でもその弊害について話し合い、共同認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、出入りがある時は自然な声かけができるようにしているが、対応できない時間があり、鍵をかけることがあった。	○	鍵をかけることの弊害を十分理解して、より良いケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは五感をフルに発揮して、全員を見守れるようにしている。また夜間は安眠を妨げないよう配慮しながら定期的に見回っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤嚥しやすいものや危険なものは管理しているが、針類等使いたい時には直ぐに出せるよう用意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故が起きた時は速やかに報告書を作成し、スタッフ全員に周知し再発防止を図っている。服薬に対しては誤薬のないよう声を掛け合って事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルを作成し、緊急連絡網を使って、緊急時は直ぐに対応できる体制ができています。	○	特に夜間の対応には不安を持っている職員がいるが、お互いに情報を共有して不安解消に努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと定期的に訓練を行い、推進会議などで地域の方にも内情を説明して、緊急時は協力をもらえるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり起こりうるリスクについては常に家族と話し合い、対応策についても説明、理解してもらっている。	○	リスクをあまりに過剰に考えてしまう家族もいるが、一緒に生活を支えていく姿勢を大事にしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の健康管理は医師や看護師の指示の元、全スタッフが情報を共有して、小さな変化にも敏感になり、直ぐに対応できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬効能書を個人ファイルにして、いつでも効能や注意事項が把握できるようにし、変更があったら連絡帳を活用して、情報漏れの無い様にしている。	○	薬について不明な時は、薬剤師が直ぐに対応できるように協力をもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤服用時はその副作用を理解し、過剰にならないよう医師や看護婦に指示をもらいながら、献立を工夫したり多めに水分を摂ったりして、できるだけ自然な排便ができるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯消毒はスタッフで行うが、日頃の口腔ケアは能力に応じて行えるよう個別に対応している。また受診が必要な方は近くの歯科が受診できるよう、送迎や予約取りなどの援助をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にカロリー計算をしてもらい、内容もアドバイスももらっている。病気により制限のある方もいるが、医師の助言ももらいながら、楽しめる食事が提供できるよう努めている。	○	体重測定を毎月行い、栄養状態の把握に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成したり、玄関入り口に注意書きをはり、家族にも協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や冷蔵庫など定期的に掃除や消毒をおこない、食器は日光消毒を行うなど衛生管理に努めている。また季節に応じてなるべく加熱調理したものをお出ししている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周りを田園風景に囲まれ、玄関先に花や木が植えてあり、親しみやすく入りやすいようにしている。また玄関口にベンチを置き、外気浴やおしゃべりが楽しめるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明は、利用者の希望を取り入れながら、常に気配りを行っている。換気は空調設備に頼りすぎないように、自然な換気に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋を利用したりやホールにソファを置いて、お一人で過したり、気の合った同士で過せるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出の品物を出来るだけ持ち込んでいただき、家具の配置も家族と話し合っ決めて貰っている。整理しても直ぐに乱雑になってしまう方もいるが、思い出の写真などは、見やすいようボードに貼るなど工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けて自然な換気ができるようにし、外気温に注意しながら大きな温度差がないよう、こまめな調節をしている。居室内は一人ひとりに応じて個別に調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使用頻度の高いトイレや洗面所に手すりを設置した。	○	浴室など手すりの不十分な場所があるので早急に対応必要である。利用者への不安感やスタッフの介護へ負担ある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なかなかトイレが理解できず失敗される方もいるが、混乱が少しでもなくなるよう工夫していきたい。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、日向ぼっこや会話を楽しんだり、畑で植え付けや収穫の楽しみが味わえるようにしている。周囲は交通量も少なく、車椅子で散歩して季節感が感じられるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年々介護度の高い方が多くなり、最後まで継続した生活を希望される方が増えてきました。本人家族の意向があり、痛みのコントロールができればターミナルケアまで行えるようにしています。また介護現場における接遇マナーの研修会を行い、思いやりを持ってより充実して心地よい生活が送れるよう努力していきたい。